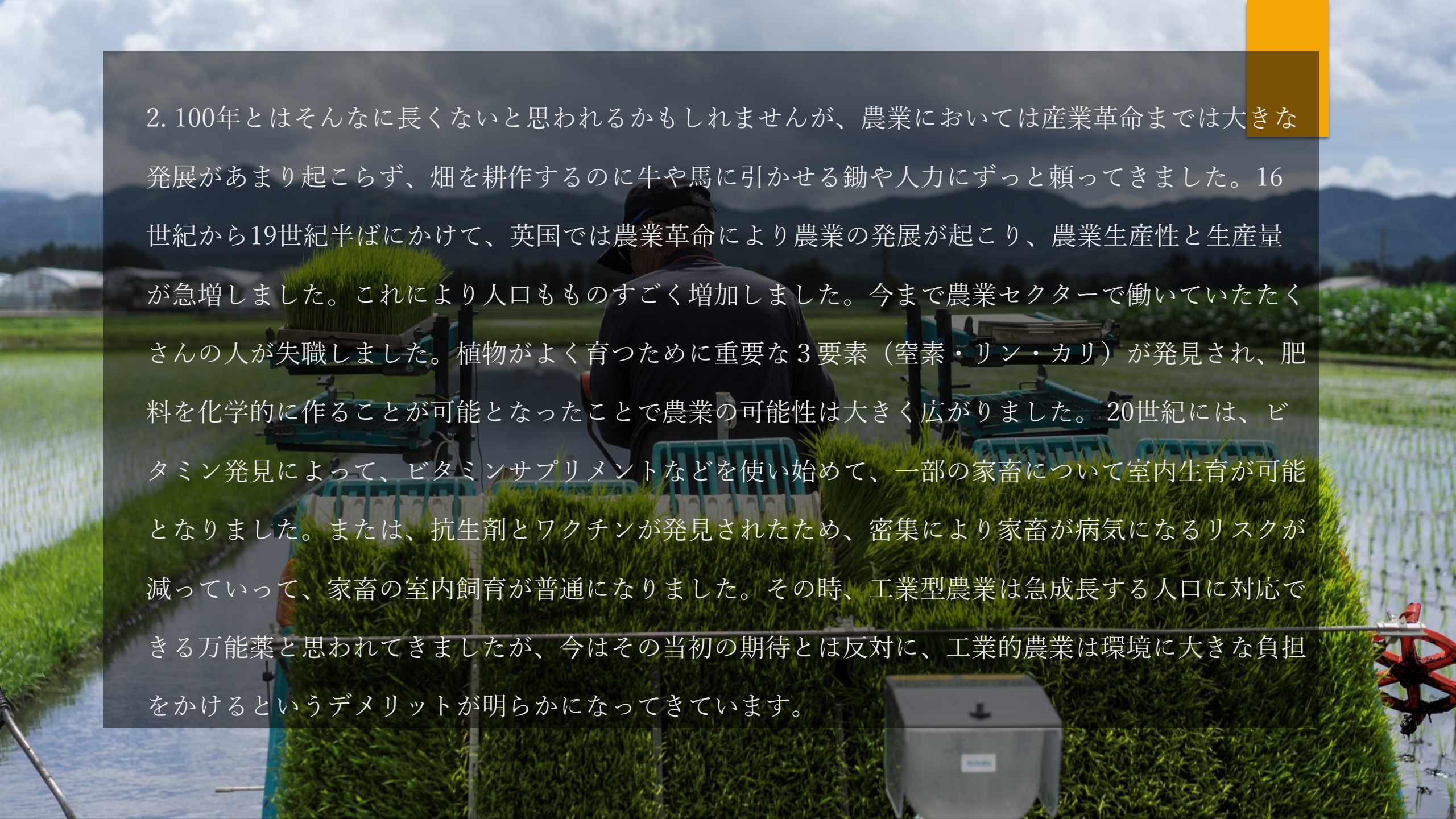


6月

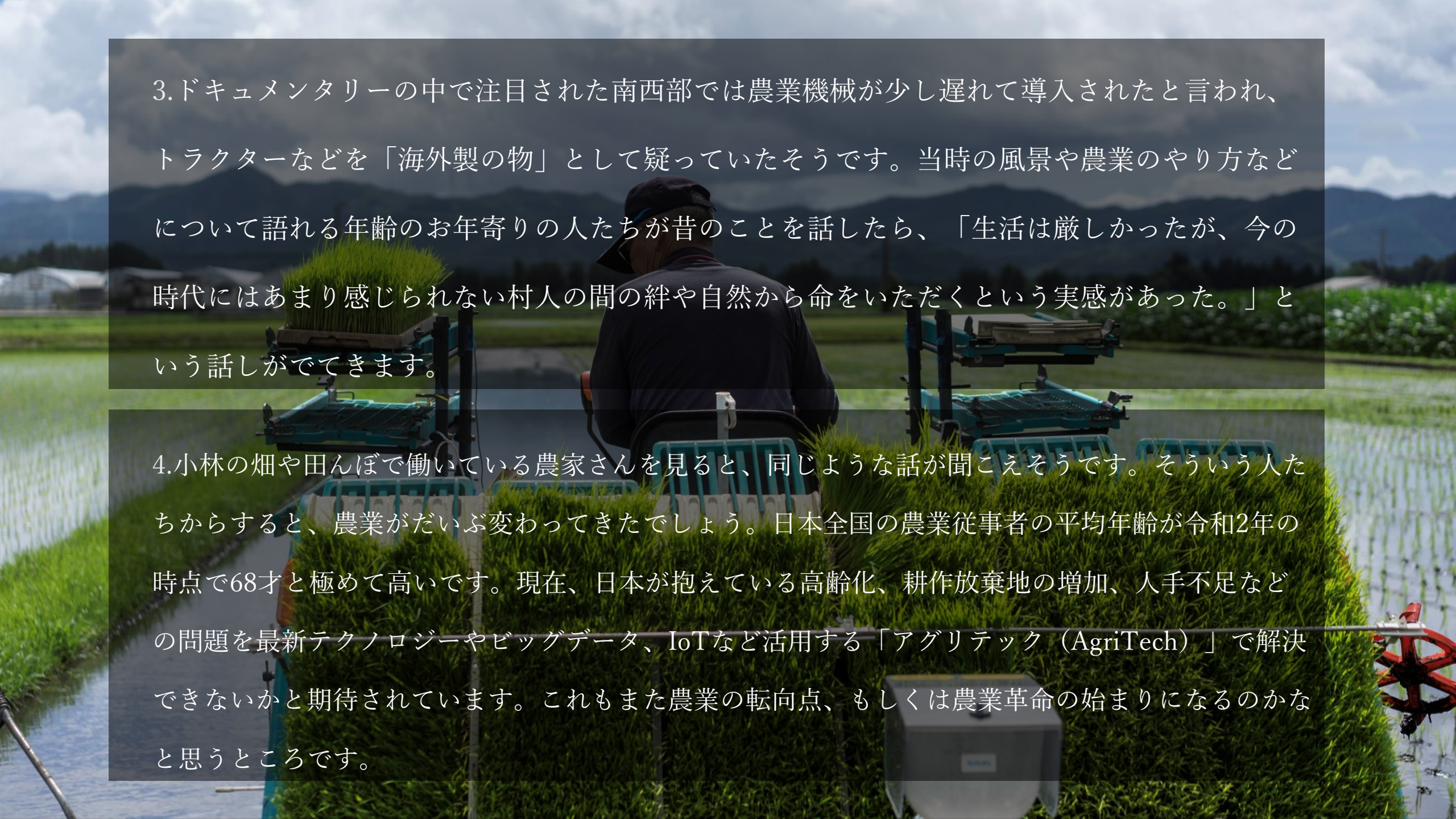
「Landwirtschaftlicher Fortschritt」 アントニア・シュルト

1.普通のテレビはそこまで見ませんが、ドイツの公共テレビのドキュメンタリーは結構好きです。地域によってそれぞれのチャンネルがあって、YouTubeで簡単にアクセスできます。ドイツ語の多様な方言を聞いたり、ドイツの風景を見たりできるので、癒されます。この前のG7の影響もあるかもしれませんが、最近をよく農業をテーマに関するものを目にします。その中で、ドイツの南西部の100年遡る農業の歴史についてものがありました。



A person wearing a dark jacket and a cap is seen from behind, operating a mechanical device in a rice field. The device is used for transplanting rice seedlings. The field is filled with rows of young rice plants. In the background, there are mountains and a cloudy sky. A yellow vertical bar is visible on the right side of the image.

2. 100年とはそんなに長くないと思われるかもしれませんが、農業においては産業革命までは大きな発展があまり起こらず、畑を耕作するのに牛や馬に引かせる鋤や人力にずっと頼ってきました。16世紀から19世紀半ばにかけて、英国では農業革命により農業の発展が起こり、農業生産性と生産量が急増しました。これにより人口もものすごく増加しました。今まで農業セクターで働いていたたくさんの方が失職しました。植物がよく育つために重要な3要素（窒素・リン・カリ）が発見され、肥料を化学的に作ることが可能となったことで農業の可能性は大きく広がりました。20世紀には、ビタミン発見によって、ビタミンサプリメントなどを使い始めて、一部の家畜について室内生育が可能となりました。または、抗生剤とワクチンが発見されたため、密集により家畜が病気になるリスクが減っていった、家畜の室内飼育が普通になりました。その時、工業型農業は急成長する人口に対応できる万能薬とわれてきましたが、今はその当初の期待とは反対に、工業的農業は環境に大きな負担をかけるというデメリットが明らかになってきています。

A farmer wearing a dark cap and jacket is seen from behind, operating a green rice transplanting machine in a paddy field. The machine is moving through rows of young rice seedlings. In the background, there are green hills under a cloudy sky. The text is overlaid on a semi-transparent dark grey box.

3.ドキュメンタリーの中で注目された南西部では農業機械が少し遅れて導入されたと言われ、トラクターなどを「海外製の物」として疑っていたそうです。当時の風景や農業のやり方などについて語れる年齢のお年寄りの人たちが昔のことを話したら、「生活は厳しかったが、今の時代にはあまり感じられない村人の中の絆や自然から命をいただくという実感があった。」という話しができます。

4.小林の畑や田んぼで働いている農家さんを見ると、同じような話が聞こえそうです。そういう人たちからすると、農業がだいぶ変わってきたでしょう。日本全国の農業従事者の平均年齢が令和2年の時点で68才と極めて高いです。現在、日本が抱えている高齢化、耕作放棄地の増加、人手不足などの問題を最新テクノロジーやビッグデータ、IoTなど活用する「アグリテック (AgriTech)」で解決できないかと期待されています。これもまた農業の転向点、もしくは農業革命の始まりになるのかなと思うところです。